

# 平成25年度事業報告

## 西宮すなご医療福祉センター

平成25年4月1日から「障害者自立支援法」に替わって、「障害者総合支援法」が施行されました。当センターは本法の施行に合わせて、その体系に合わせた運営体制としました。具体的には、入所部門は、医療型障害児入所施設と療養介護施設の一体運営（定員180名＋短期入所8名）としました。在宅部門は、従来の重症児者通園は、主として重症心身障害者を対象とする生活介護事業（定員15名）と放課後等デイサービス事業（定員5名）を実質定員15名として運用、その他に療育支援事業、ダウン症療育（有料）を実施しました。また、居宅支援小松事業所では、知的障害児ならびに発達障害児を対象とした児童発達支援事業（定員10名）、放課後等デイサービス事業（定員10名）、小児・重症児を専門とした訪問看護事業と障害児者を対象とした居宅介護事業を実施しました。相談支援部門は昨年度受託した厚生労働省のモデル事業の成果を踏まえて、地域の重症心身障害児者の計画相談を進めました。

### 1. 経営状況

本年度から新会計基準に合わせた経理処理を行いました。当センターでは、19サービス区分に分類いたしました。国や地方公共団体の財政難の影響を受け、医療事業や障害福祉サービス等事業などの収入単価は減少傾向にありますが、入所利用者の重度化に伴う入院診療収入や在宅部門の利用率改善により、全体のサービス活動収益は、前期比2,843万円増加しました。しかしながら、支出の部では、看護師確保による人件費、委託費や大規模修繕費、光熱水費の増加により前期比5,410万円増となりました。今期の人件費及び委託費の増加に関しては、次年度の4階病棟一般病棟化に向けての先行投資であり、来期3,000万円程度の増収を見込んでおり、収支バランスは、堅調に推移しています。

### 2. 入所事業（医療型障害児入所および療養介護）

\*含む短期入所事業

長期入所（定員180名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均人数	178.5	178.6	178.9	179	179.1	178.7	178.4	178	176.2	174.8	178.4	177.5	178名
入所率	99.2	99.2	99.3	99.4	99.5	99.3	99.1	98.9	97.9	97.1	99.1	98.6	98.9%

短期入所（定員8名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均人数	8.1	8.7	8.8	7.3	8.6	8.2	7.6	8.3	8.3	6.7	9.6	8.7	8.2名
入所率	101.6	108.5	109.6	91.5	107.7	102.1	95.2	104.2	104	84.3	120.5	109.3	103.2%

入所利用率は平均98.9%、短期入所利用率は103.2%でした。病棟看護師長を管理業務に専念できるように各病棟の看護師定数を増やしました。また利用者の体調の変化に合わせ、医療機器や備品の整備を行いました。日中活動は、集団あるいは個別でのレクリエーションを中心に好みや体調に沿った内容を展開しました。外部活動は主に1人2～3回の実施で、利用者の体調に考慮した活動を提供しました。10月には全体行事「療育祭」を開催し、「祭」をテーマに病棟や通所の枠を超えた交流を2週間にわたって行いました。入所者の学校教育については、西宮養護学校では7名、芦屋特別支援学校砂子訪問学級では学齢児と就学プラン（学齢期に義務教育及び高等教育を受けていない入所者）合わせて37名がそれぞれ通学またはセンター内で教育を受けました。そのうち計10名

が高等部を卒業しています。また砂子訪問学級において、就学プラン対象外である3名の未就学入所者に対し、学籍は無いものの通常の授業に最大月2時間まで参加できるよう協力していただきました。

### 3. 地域支援事業

通所事業（重症児者の生活介護および放課後等デイサービス）（定員15名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均人数	11.7	12.9	13.8	13.5	13.5	12.8	13.5	13.2	13.1	13.2	12.7	13.0	13.1名

通所事業は、制度変更により新体制となりました。1日平均13.1名の利用で事業目標の13名を達成し、法定化に伴い収支は大幅に改善しました。

児童発達支援および放課後等デイサービス事業（居宅支援小松事業所）

児童発達支援事業（定員10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均人数	4.8	4.6	4.9	4.8	5.5	6.8	7.1	7	7.1	7.1	6.9	7.2	6.2名
延利用人数	76	96	98	105	93	130	157	139	120	135	131	101	115.1名

児童発達支援事業は、上半期の利用者数は伸び悩みましたが、下半期には目標である平均利用者数（1日）7名を達成しました。

放課後等デイサービス事業（定員10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均人数	2.8	3	3.5	4.9	5.8	6.8	5.9	5.7	4.8	5.6	5.1	4.9	4.9名
延利用人数	11	23	28	39	35	68	77	68	58	67	56	54	48.7名

放課後等デイ事業は利用者数がのびませんでした。次年度は、利用者数が伸びるよう、事業内容を見直す予定です。

療育等支援事業（訪問・外来；重症児保育「さくらんぼ」・施設）

重症児保育「さくらんぼ」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延利用人数	5	8	4	9	6	5	7	15	14	17	16	11	9.8名

幼児教室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延利用人数	36	128	125	133	24	130	145	132	118	103	131	114	

療育等支援事業

	訪問	外来	施設
1年間延人数	130	345	170
月平均	10.8	28.8	14.2

## 訪問看護・居宅介護事業（居宅支援小松事業所）

### 訪問看護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延利用人数	349	367	346	387	335	325	397	368	358	357	361	383	361名

### 居宅介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延利用人数	502	495	505	505	466	508	590	521	509	495	511	515	510名

訪問看護の利用実績は月平均361名であり、昨年度実績（325名）より、11.1%増加しています。居宅介護の利用実績は月平均510名であり、昨年度実績（498名）より、2.4%増加しています。石川の総合相談支援センターでも障害児者への居宅介護サービスを開始して連携できる体制としました。

### 相談支援事業

スタッフが相談支援専門員、サービス管理責任者の資格を取得しました。厚生労働省モデル事業の実績をもとに、西宮市基幹相談支援センターと連携して重症心身障害児者の計画相談を開始しました。NPO法人「みどり兵庫」による法人後見の開始の準備に保護者会とともに協力しています。

「てんかん」講座を2回実施しました。

## 4. 工事・設備改善・備品購入・その他

躯体および設備については、空調、配管の洗浄、外壁や防水等の補修工事を行い、順次、改修を行いました。

入所利用者の重症化や高齢化に対応するため、医療機器の整備と更新を進めました。

後援会からの助成を受けて、通所室の南側の窓にひさしの取り付け工事を行いました。栄養室の注入食のためのチューブの洗浄器や食器の更新を行いました。今年度予定していた配膳車の更新は26年度に行う予定です。

国・兵庫県の補助による在宅重症児者の災害時における避難スペース確保のため、6階の改修工事を行い、完成しました。

エネルギー節減を目標に、東日本大震災前（平成22年度）に比べて、電気及びガスの使用量15%の節減を目標に取り組みましたが、今夏は猛暑であったこともあり、電気-7.42%、ガス-8.52%の削減を達成しましたが、目標には達しませんでした。

## 5. 人材育成

若手の管理職や役職への登用を進め、職員の働く意欲を高めるようにしました。

専門資格取得を積極的に進め、今年度は、介護福祉士4名、社会福祉士2名、ケアマネージャー1名の資格取得者がありました。また、重症児協会認定・看護師研修（2名）、ボバース講習会（1名）の各種講習会参加への援助を行うとともに、日本重症心身障害学会での発表（4演題）、日本重症児療育学会（2演題）での発表など、日常活動の発信を積極的に行いました。

他の重心施設との交流研修も実施しました。

## 実習生受入れ状況

医師	看護師	薬剤師	介護等痰吸引	心理士	理学療法士	作業療法士
10名 (病棟8、訪問2)	28名	75名	37名	16名	4名	6名
言語療法士	社会福祉士	介護福祉士	保育士	介護等体験	トライやる	合計
2名	7名	35名	4名 (見学実習も含む)	4名	6名 (2中学校)	234名

## 研修状況

研修内容	回数	のべ参加人数
外部研修	56回	113名
内部研修	38回	1027名

## 6. 職員の状況および職場環境

ホームページおよび人材紹介会社の利用により、有能な看護師の採用が順調に行えました(10名)。これにより懸案であった4階病棟の一般病棟(障害10:1)化を次年度には達成できる見込みとなりました。

6月から職員給食を、外部弁当から院内調理方式に切り替えて、栄養面でバランスのとれた食事を提供して、職員の健康増進に寄与しています。

地域交流スペースにコンビニエンスストアの自販機による食品供給を始めました。

目標管理制度を継続して実施しました。部門により実施率に差がありますが、次年度以降も、職員の意欲を向上させるために完全実施を目指します。

メンタルヘルスによる休業及び災害性腰痛による休業がそれぞれ数件発生しました。管理職、役職を通じて休業者への必要な支援を行うとともに、安全衛生委員会を中心に腰痛体操の実施など再発防止策について検討を進めています。

## 7. 防災対策

火災や地震を想定した訓練を定期的に行いました。7月には火災を想定した避難訓練と消火器、消火栓による初期消火訓練を含む総合防災訓練を実施し、1月には南海トラフ大地震による津波を想定した避難訓練を実施し、避難方法や職員各自の役割などを見直す契機となりました。

各部署に振り分けて毎月防災訓練を実施しました。次年度も引き続き実施していきます。大災害を想定して、食料と物品の備蓄は、3日分から7日分に増量しました。

地域の障害児者の避難場所確保のために、国・兵庫県の補助事業として6階の洗濯場等の改修工事をおこないました。今後の防災計画に盛り込んでいきます。